

香川県保険医協会主催 医科歯科合同セミナーのご案内

# 水疱症と口腔病変

大日輝記先生 香川大学医学部皮膚科学講座 教授就任記念講演会

記

日 時: 20年8月1日(土) 19:00~20:30

講 師: 大日輝記先生  
(香川大学医学部皮膚科学講座 教授)

座 長: 三宅 実先生  
(香川大学医学部歯科口腔外科学講座 教授)

会 場: 高松シティホテル(高松市亀井町8-13)

参加費: 会員・スタッフ 無料 未入会 5,000円

定 員: 30名(先着順)



講師 大日輝記先生

【略歴】

1996年 徳島大学医学部医学科卒業  
2001年 徳島大学大学院医学研究科修了(寄生虫学)  
九州大学医学部附属病院皮膚科医員  
2003年 長崎県離島医療圏組合中対馬病院皮膚科副医長  
2006年 九州大学病院皮膚科助手  
2007年 久留米大学医学部皮膚科学講師  
2009年 コロンビア大学医学部微生物学免疫学講座博士研究員  
2013年 京都大学大学院医学研究科皮膚科学講師  
2019年 京都大学大学院医学研究科皮膚科学准教授  
2020年 香川大学医学部皮膚科学教授

【抄録】

水疱は様々な要因で生じる。例えば、接触皮膚炎などの炎症性疾患、熱傷などの物理化学的損傷、光線過敏、感染症や刺虫症などで、特徴的に、または随伴してみられる。先行する病変や傷害なしに、皮膚や粘膜のびらん、また水疱を生じる一連の疾患群を水疱症と呼ぶ。遺伝的素因に伴うものとして先天性表皮水疱症が挙げられる。一方、かつて原因不明の水疱症の総称であった天疱瘡は、現代において、自己免疫性水疱症という疾患概念で説明されている。

自己免疫性水疱症は「表皮細胞間結合や表皮-真皮結合を担う分子に対する自己抗体が産生され、表皮細胞間結合または表皮-真皮結合の障害がおこり、びらんや水疱を生じる疾患」と定義づけられる。

口腔病変を生じる場合、疼痛のため食事のままならず、また一般に治療反応性に乏しく難治のことが多い。さらに、口腔病変が先行したり、皮膚の水疱を伴わなかったりした場合、診断に苦慮することが多い。

天疱瘡や類天疱瘡などの自己免疫性水疱症を疑った場合、診断の確定には病変部または循環血中の自己抗体の検出が不可欠である。水疱や口腔病変を生じ、自己免疫性水疱症と考えたにも関わらず自己抗体を検出できなかった場合の対応について紹介する。

2020年8月1日(土) 医科歯科合同セミナー申込用紙

お申込みは香川県保険医協会へfaxください fax 087-802-1336

医院名

ご氏名

ご住所

TEL

fax